

知ってるようで
知らない私たちの町

10

若井

家々も人々もまとまりがある、
善意あふれる集落
わか



40戸ほどの集落

窪

川の中心街から国道381号線を4kmほど下ったところにある若井大橋を渡ると若井である。大橋の近くには沈下橋が残されている。

四万十川沿いに広々とした田んぼが開けていて、その南側の山手に、40戸ほどの集落がJRの線路に囲まれるように密集している。集落の端から端までは、ざっと数百坪といったところだろう。

雨にも負けず風にも負けず

こ

地域の顔ともいえる若井駅は、予土線と土佐くろしお鉄道中村宿毛線の分岐駅でもある。40年ほど前、地城の子どもたちによって始められた駅の清掃は、子どもが少なくなった今でも、2人の小学生を婦人グループが補助しながら続けている。雨の日も風の日も。



利用者によって何気なく捨てられるゴミが、子どもたちの手で掃除されている。「冬は少ないけれど、夏になるとゴミの量がすごいんですよ」と一人の婦人がゴミ箱を片づけながら語ってくれた。

観音堂と鎮守の森

大

橋の少し上流には、町のし尿処理施設「グリーンセンター」がある。窪川・大正・十和のし尿を一手に引き受けて30年になる。ここでは浄化した汚水を一度裏手の山にポンプアップしてから放水するという方法をとることにより、四万十川の水質に配慮している。

集落のいち

ばん下手には観音堂があり、十一面観音や不動明王などの仏像が大切に保存されている。



少し離れたところの鎮守の森には春日神社があり、11月には町の文化財でもある花取り踊りが奉納される。

ため池などから ほ場へ流れる本格的な水路

地

域にある二つのため池などから延びている各ほ場への水路は、住民の手によるものとしてはかなり本格的である。聞くと、地域におられる数人の大工さんや測量士さんも協力してくれているのだという。

家々も人々もまとまりのある若井は、善意あふれる集落である。